

経営比較分析表（平成28年度決算）

佐賀県多久市 多久市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2
直営	14	-	ド透訓	救 臨 災 輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
19,929	6,363	第2種該当	10:1	

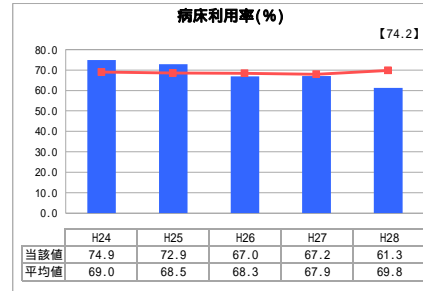
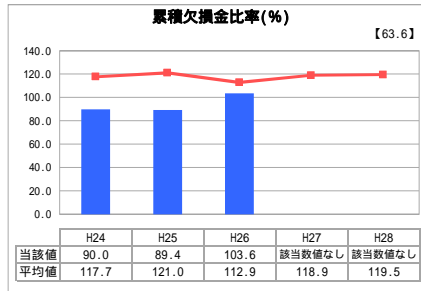
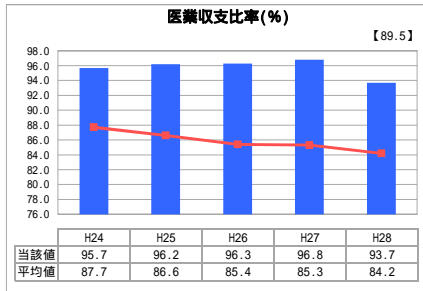
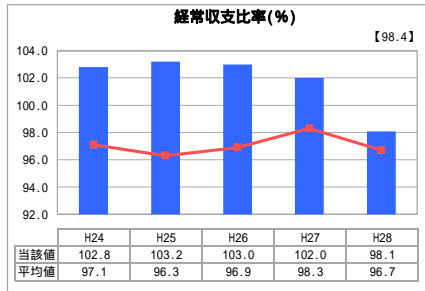
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
60	45	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	105
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
57	30	87

グラフ凡例
 当該病院値（当該値）
 - 類似病院平均値（平均値）
 【】平成28年度全国平均

1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン（放射線）診療

2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輸...病院群輪番制病院

1. 経営の健全性・効率性

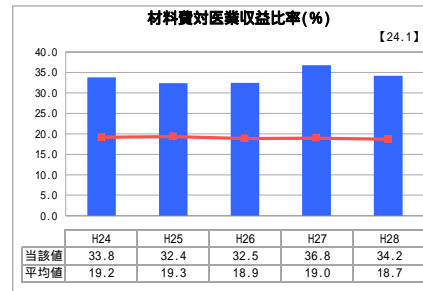
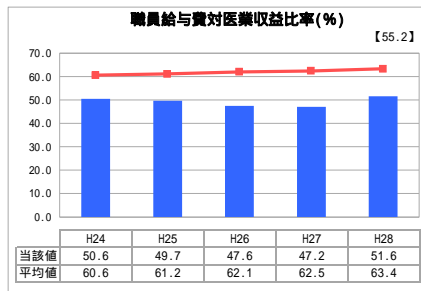
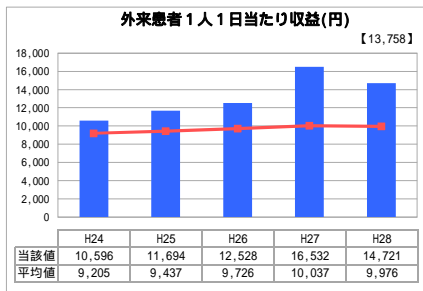
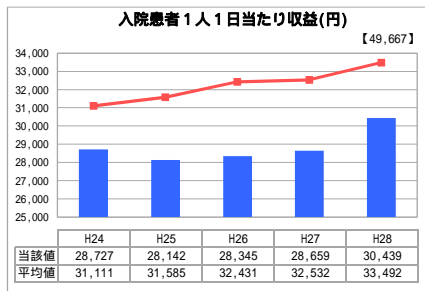


「経常損益」

「医療損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



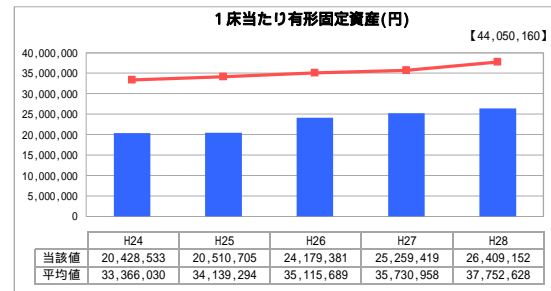
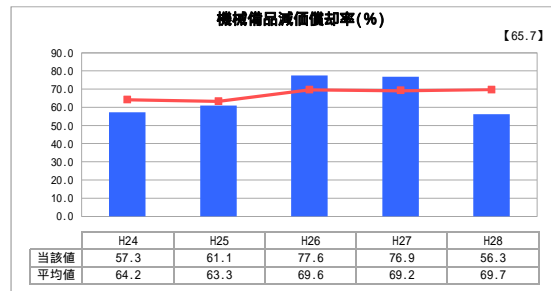
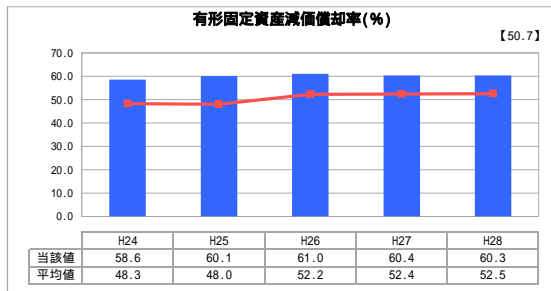
「収益の効率性」

「収益の効率性」

「費用の効率性」

「費用の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「機械備品の減価償却の状況」

「建設投資の状況」

地域において担っている役割

本院は佐賀県の中核医療圏に位置し、地域の中核医療施設として、主に内科・外科・整形外科等の診療科目を掲げ、地域に密着した病院事業を展開している。病床数は一般病床60床、療養病床45床の計105床であり、一般病床のうち6床は地域包括ケア病床としている。
 また、救急告示病院及び災害拠点病院等の指定を受け、県中部の中核的病院としての役割を担っています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

患者数の減（入院患者数は対前年度比9%の減、外来患者数は対前年度比2%の減）により、医療収益は対前年度比116、844千円（7.7%）の大幅な減となり、材料費等の減により医療費用は対前年度比72、037千円（4.6%）の減となったものの、純損失は29、037千円の赤字となり、当年度未処分利益剰余金は485千円となった。

病床利用率は療養病床の患者数の減により、67.2%から61.3%と大幅に低下した。

職員給与費対医療収益比率は、職員給与費が対前年度比0.9%の微増であったが、医療収益の大幅な減により51.6%となった。

2. 老朽化の状況について

本院の建物は病棟が昭和52年、診療棟が平成5年に完成し、病棟は築40年以上経過していることから、有形固定資産減価償却率が60.3%と老朽化が進んでいる。機械備品減価償却率は、平成28年度に電子カルテを整備したことにより、76.9%から56.3%となった。

維持管理については、平成26年度に防水及び外壁改修工事、平成27年度に空調改修工事を行った。また、消防法の改正に伴いスプリンクラーの設置義務が課されたことから、将来的に改築を含めた検討が必要である。

全体総括

患者数の減、医師及び看護師等の医療従事者の確保、施設の老朽化等、本院を取り巻く環境は厳しい状況である。また、本市は県内の中でも人口減少や少子高齢化が進んでおり、いち早く地域医療のあり方を見直す必要がある。

平成27年3月に国（総務省）より「新公立病院改革プラン」が策定され、平成29年1月には多久・小城地区自治体病院再編・ネットワーク研究会より報告書が策定された。これらの報告を受け、平成29年3月に本院の果たすべき役割や方向性、病院のあり方等について示した「多久市立病院改革プラン」を策定した。

今後は、同プランを基に経営改革を進め、地域住民に安定した医療を提供していきたい。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。